



家族の絆 愛の詩

～兄弟のつながりから生まれるあたたかさ～

ライオン兄弟

毎日なわばりあらそいで

ちびっ子ライオン

ばくにガルル ウーンと

いかくする

負けじとばくもはんげきだ

かんでかまれて

じゃれあつて

ばくら ライオン兄弟さ

負けたちびっ子ライオンは

ウオンウオンないて

うるさいな

仕方ないからゆずってやろう

少しがまんもするけれど

ばくら ライオン兄弟だ

そのあと ちびっ子ライオンは

なんにもなかったかのように

のどをならして ごろりんこ

ゴロゴロ ばくのせにのつて

あまえてあまえて

ちびっ子ライオン

少しせなかがおもいけど

おんなじおもさで

ばくもすき

ばくら ライオン兄弟さ

今日もガオガオ遊ぼうか

兄弟としてのつながり

この詩は、今年度養老町が募集した「家族の絆 愛の詩」の【小中学生の部】で岐阜県知事賞を受賞した、町内の小学校に通う3年生の川添蒼斗さんの作品です。この詩には、ありふれた日常の中にある兄弟の関わりが生き生きと表れています。

一つ屋根の下で生活していると些細なことでもぶつかることもあるのではないのでしょうか。蒼斗さんは兄として弟とじゃれあ

う中で、手加減することもあるが、ついつい本気になってしまいうこともあったのでしょうか。結果として弟が泣いてしまいます。ここで「兄」としての姿が現れます。「ないてうるさい」から「ゆ

ずってやろう」と。兄として弟を思いやつての少しの我慢です。本当は、蒼斗さんもゆずりたくはないのかもしれませんが。しかし、兄弟だから弟のためにゆるめるのです。

その後、何もなかったかのようになつて蒼斗さんの背中に乗って弟は甘えてきます。「さっきは何だったんだ。」と兄としての心の

声が届いてきそうです。ですが、ここでも蒼斗さんは甘えてくる弟を受け入れています。少し重いけれど「おんなじおもさでばくもすき」から、かけがえない兄弟のつながりや兄としての弟を愛おしく思う蒼斗さんのあたたかさを感じることが出来ます。きっと、弟も蒼斗さんの優しさを感じ取っているのでしょう。

また、この詩には書かれていませんが、この出来事を見守っている家族のあたたかい眼差しも感じる事が出来ます。家族として2人が怪我をしないように見守りながら、関わりの中で

兄弟の成長を願われているのではないのでしょうか。そして、そのような見守りがあるからこそ、「ライオン兄弟」という日常の関わりからあたたかな兄弟のつながりが感じられる詩ができたのだと思います。

最後は、「今日もガオガオ遊ぼうか」と締められています。腹の立つこともあるでしょう。少し我慢することもあるでしょう。さっきまで喧嘩をしていたのに

何事もなかったかのように甘えてくることもあるでしょう。そんな、何気ない毎日の中で「遊ぼうか」と誘う蒼斗さんの弟への思いやりが余韻となって心に響いてきます。

家族の絆 愛の詩を通して

家族は、人間が生まれ育つ最初の集団です。そして、自分以外の他者と出会う場です。今回紹介した詩には、蒼斗さんと弟の関わり、兄に甘えられる弟の姿など家族という集団の中で生まれるつながりがありありと表現されています。

家族の中で育まれた「あたたかなつながり」が「人権意識の基盤」となり、地域や社会に広がることで人権尊重の機運が高まってきます。きっと、皆さまの日常にもこのような「家族の絆」が感じられる出来事があるのではないのでしょうか。ぜひ、来年度も「家族の絆 愛の詩」の募集をひとつの機会とし、家族の絆が感じられる出来事を見つけてみませんか。